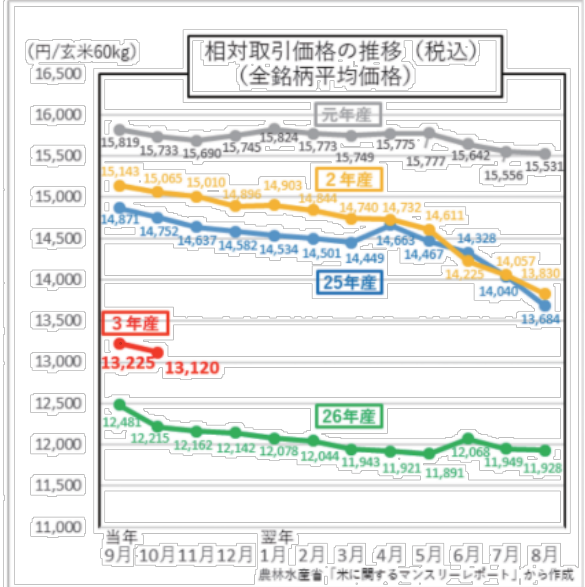


生産者の皆様へ 米価が下がっている今…

米価については、米の主産県の豊作が続いたことに加え、全国的に、人口減少や食の多様化等により消費が減少しており、さらに新型コロナウイルスによる外食需要の低迷による影響も相まって、需給のバランスが崩れ米の在庫が増加し、大きく下落しています。

令和4年においても、厳しい需給環境が続く可能性があります。



米価の上昇が期待できない状況で、 収益を向上するために何ができるでしょうか!?

収益向上の5つのポイント

ポイント	目標	イメージ
①収量増	(収量 1割増)	
②品質向上	(1等米比率1割増)	
③面積増	(作付面積 2割増)	
④二毛作	(水稲 + α)	
⑤コスト低減	(肥料・農薬等、物材費のコストチェック)	

収入試算(例) <収量1割増+1等米比率1割増+作付面積2割増の場合>

	R2産	R3産	R4産
米価 (円/60kg)			
1等	13,500	10,200	10,200
2等	12,600	9,600	9,600
収量(kg/10a)	478	478	526
面積(a)	100	100	120
収入(円)	1,053,990	798,260	1,060,013
10a当たり(円)	105,399	79,826	88,334
※1A香川県の収量(R2-R3産は1等7割、2等3割)及び水稲の10a当たり平均収量(農家別のベース)により算出。			1,066,013

「おいでまい」でR4年産に、上記の向上ポイントに取り組んだ場合、R3年産から価格が回復しなかったとしても、R2年産と同等の収入が期待できます。

R3年産 798,260円(100a) → R4年産 1,060,013円(120a)

主食用米生産拡大事業を活用すると、さらに6,000円の加算

3p参照

①収量増(収量1割増)



確認内容		チェック
施肥の見直し (量・時期)	<p>施肥を昨年のままの設定で行っていませんか？ 昨年の結果をもとに、毎年、栽培しおりを確認し、ほ場条件等に合わせて適正な量や施肥の時期を見直しましょう。 栽培しおり (JA香川県HP: https://www.kw-ja.or.jp/farmer/) <input type="button" value="JA香川県しおり"/> <input type="button" value="検索"/></p>	
栽植密度	<p>株間が広すぎたり、狭すぎたりしていませんか？ 毎年、田植え前に設定を確認しましょう。 植付基準 例) : 「おいでまい」 株間18cm~22cm</p>	
スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) の防除	<p>適正な防除が行えていないと、ジャンボタニシの食害により欠株や茎数の確保が不十分となり、減収につながります。ほ場への侵入防止、薬剤防除、初期水管理、厳寒期の耕起などを組み合わせて被害を抑制しましょう。 詳しい対策 (香川県病害虫防除所HP: http://www.jppn.ne.jp/kagawa/30.htm)</p>	
品種の選定	<p>安定的に収量が見込める品種への転換 例) 「コシヒカリ」 から 「あきさかり」</p>	
稲・麦わら すき込み	<p>稲・麦わらは、焼却せずにすき込み、排水性・保水性・保肥性を高め、地力の維持に努めましょう。 麦わらすき込みの留意点は、麦わらは長め(15cm程度)に切る、荒おこしはゆっくり深く、代かき2日前の入水、ごく浅水で低速での代かき、除草剤散布後7日目に「田干し」などがあります。 稲・麦わら利用 (JA香川県HP: https://www.kw-ja.or.jp/farmer/) <input type="button" value="JA香川県麦わら"/> <input type="button" value="検索"/></p>	

②品質向上(1等米比率1割増)



確認内容		チェック
品種の選定	<p>1等米比率の向上が見込める品種への転換 例) 「ヒノヒカリ」 から 「おいでまい」 参考 令和2年産1等米比率 (JA集荷) : 「ヒノヒカリ」 15% ⇔ 「おいでまい」 90%</p>	
カメムシの 適期防除	<p>カメムシによる被害は、等級検査に大きく影響し、斑点米率が0.1%を超えると2等、0.3%を超えると3等、0.7%を超えると規格外になります。⇒ 斑点米率: 1カルトン上の粒数は、1等は1粒以内、2等は3粒以内、3等は7粒以内、規格外は8粒以上が目安です。 出穂前後の薬剤防除を徹底しましょう。 出穂10日前までに畦畔、農道等のカメムシ生息地の雑草管理を行いましょう。 詳しい対策 (香川県病害虫防除所HP: http://www.jppn.ne.jp/kagawa/30.htm)</p>	
スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) の防除	<p>ジャンボタニシの食害により欠株や茎数の確保が不十分となると、株ごとの茎数や籾数にムラができ、成熟ムラとなり、品質の低下につながります。 <対策は前述></p>	
水管理	<p>開花期以降の急激な落水や乾燥は、乳白粒や基部未熟粒の発生原因になるため注意しましょう。 早期の落水は、生きている止葉(一番上の葉)の蒸散が止まるため、穂の温度が急激に上昇し、胴割米・枯れ熟れ・熟れムラ・未熟粒の原因になるため注意しましょう。</p>	
異種穀粒の混入 防止	<p>麦類を収穫・乾燥したあとは、コンバインや乾燥機の掃除を徹底的に行いましょう。 参考 令和3年産異種穀粒による落等 (JA倉前検査R3.10.31現在) : 「おいでまい」 5.8% 異種穀粒による落等は籾の混入によることも多いため、適正水分での籾すりや籾すり機の調整に注意しましょう。</p>	
栽植密度	<p>株間が広すぎたり、狭すぎたりしていませんか？ 毎年、田植え前に設定を確認しましょう。 株間が広すぎたり、狭すぎたりすると、茎と穂のバランスが悪くなり、品質が低下する場合があります。 植付基準 例) : 「あきさかり」 株間20cm~22cm</p>	

③面積増(作付面積2割増)



水稲の作付けを休んでいる農地はありませんか?作付けを依頼された農地はありませんか?この機会に作付け拡大を!!

支援事業を活用

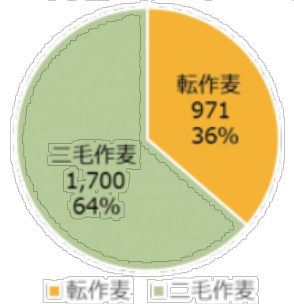
事業名	内 容	助成額	お問い合わせ先
主食用米生産 拡大事業	①「おいでまい」または「ヒノヒカリ」を前年産より10a以上拡大し、なおかつ主食用米合計面積も10a以上拡大した場合に 拡大面積分 を助成 ②さらに、上記①により拡大後の主食用米合計面積の10%以上、または作付拡大した面積について、 麦との二毛作 を実施した場合、 上乘せ で助成	「おいでまい」: 2,000~3,000円 以内/10a 「ヒノヒカリ」: 1,500~2,500円 以内/10a	県農業生産流通課 JA農産販売課
農地集積補助金 交付事業	【助成対象】 (公財)香川県農地機構から農地を借受けて経営規模拡大を図る担い手(認定農業者、認定新規就農者、集落営農法人) 【交付要件】 ・新たな借受けであること(借換えや更新は対象外) ・集落営農組織が法人化した際には、法人化後の経営耕地面積が法人化前の農作業受託面積より増加していること など	(公財)香川県農地機構から借り受けた農地面積に応じて、1.5万円/10a(又は1万円/10a)	各市町農業主務課 又は 県農業経営課

注)令和3年度の内容を記載しており、本年度は募集が終了しています。令和4年度は、変更の可能性があります。

④二毛作(水稲+α(麦、野菜等))



R元年産麦作付面積 (ha)



- 麦との二毛作は、古くから行われており、連作障害がなく、米と麦両方の収益が得られる香川に適した水田農業体系です。
- 麦の収入試算では、水稲との二毛作の場合、国や県などの各種助成措置を加えると**7~8万円程度の収入増**となります。(参考:「さぬき水田営農だより」90号)
- 園芸農家にとっても、ブロッコリーなどの二毛作では、水稲の収益が加わることに加え、水をためることで連作障害や雑草の発生を回避できるなどのメリットがあります。

⑤コスト低減(肥料・農薬等、物材費のコストチェック)

利益を上げるには、農業資材や農機具等のコスト低減も考えましょう!!

	確認内容	チェック
農地の集積	農機具の効率利用や作業の効率化を図ることができ、人的(時間的)コスト削減だけでなく生産性の向上も期待できます。 土地利用型作物である水稲・麦では特に重要な取り組みです。	
農薬の適期散布	病虫害発生予察情報などをもとに、適期に効果的な防除を行うことで、農薬使用量を必要最小限にすることが期待できます。 発生予察情報(香川県病虫害防除所HP: http://www.jpnp.ne.jp/kagawa/index.htm)	
農機具費の低減	作期を分散し規模拡大することで、機械の稼働率の向上が期待できます。 近年は、農機具の低コストモデルも出ており、新規購入時に検討してみてください。 規模に応じた農機具を選定することも大切です。 農機具をグループで共同利用することで、購入や維持にかかる一人当たりのコストを削減できます。 香川の集落営農(香川県HP) 香川の集落営農 <input type="button" value="検索"/>	
計画的な栽培計画の作成	早めに栽培計画を作成することで、作業の効率化、農地の集積準備、事前予約による資材費のコスト低減などが期待できます。	
土壌診断による施肥の適正化	土壌診断を行うことで、土壌中の肥料成分の過不足を確認し、施肥設計の効果的な見直しや減肥、作物の収量の安定化が期待できます。 肥料のコスト低減(農林水産省HP) 肥料コスト <input type="button" value="検索"/> https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/attach/pdf/210528-1.pdf	

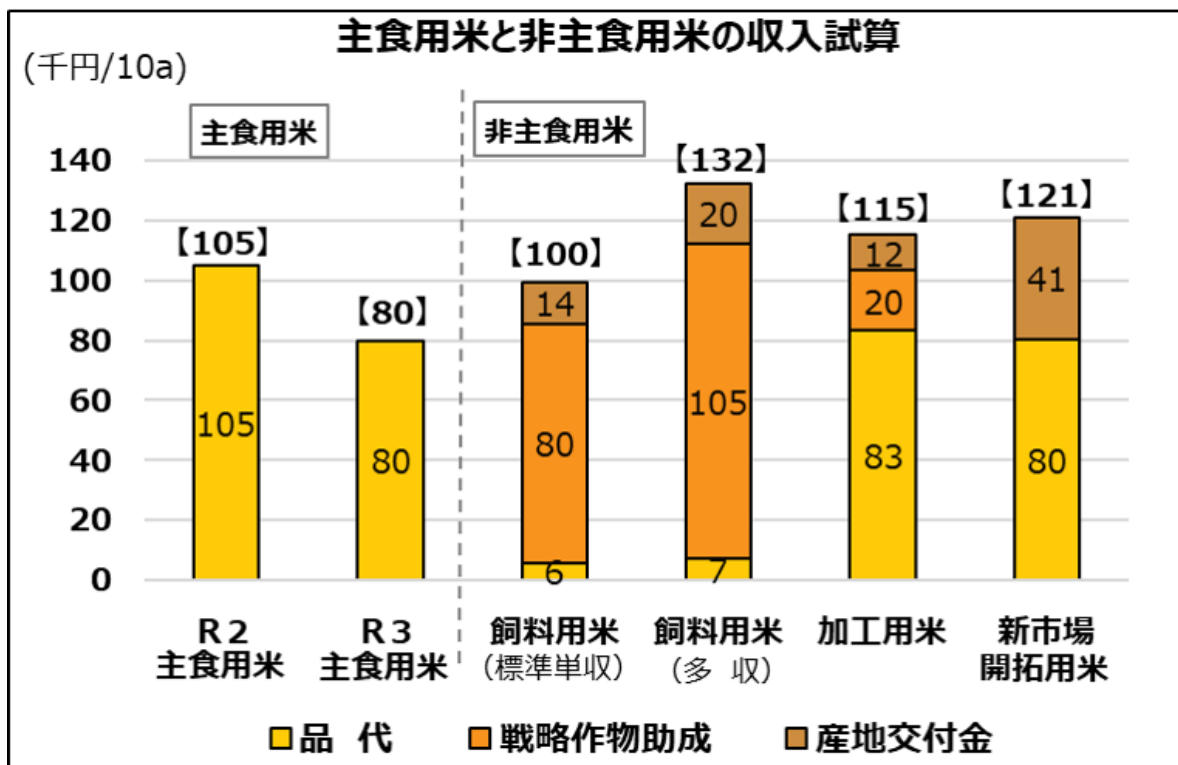
各種支援施策を活用しましょう!!

国・県や関係団体では、水田農業の振興のために各種支援施策を実施しています。これらの支援施策を活用して経営の安定を図りましょう!!

○米価の先行きが不透明な現在、収入の減少に備えるため、農業経営のセーフティネット制度を活用しましょう!!

事業名	内 容	お問い合わせ先
収入保険	<p>自然災害による収量減少や価格低下をはじめ、農業者の経営努力では避けられない様々なリスクによる収入減少を補償する。 農業者ごとに、保険期間の収入が基準収入の9割を下回った場合に、下回った額の9割を補てんする。 【助成対象】 青色申告を行っている農業者(個人・法人) 【対象品目】 農業者が自ら生産した全ての農産物(販売収入全体) 【積立金・保険料】 積立金、保険料等を支払い加入。積立金には75%、保険料には50%の国庫補助がある。</p>	最寄りの農業共済組合 各支所 又は 香川県農業共済組合 本所 TEL: 087-888-2121(代)
米・畑作物の収入減少影響緩和交付金(ナラシ対策)	<p>米、麦、大豆等の当年産収入額の合計が、過去の平均収入である標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を国からの交付金と農業者の積立金で国から直接、補てんする。 【対象者】 認定農業者、認定新規就農者、集落営農(いずれも規模要件はなし) 【対象品目】 米、麦、大豆 【積立金】 国3:農業者1の割合で積立金を拠出</p>	中国四国農政局香川県拠点 地方参事官室 経営所得安定対策担当 TEL: 087-883-6503 (フリーダイヤル): 0120-38-3786 受付時間:(平日) 9:00~17:00

○非主食用米(飼料用、加工用、米粉用、新市場開拓用など)を経営品目に組み入れることも検討しましょう!!



※主食用米の品代は、JA香川県の仮渡金及び水稻の10a当たり平年単収(農家ふるい目ベース)により算出。
 ※飼料用米、加工用米の品代は、県内事例のデータ及び水稻の10a当たり平年単収(1.7mmベース、多収は+150kg)により算出。
 ※新市場開拓用米の品代は、関係者聞き取りにより算出。
 ※産地交付金は、担い手(認定農業者、認定新規就農者、集落営農)の場合で、交付単価の上限値で算出。

お問い合わせ先

香川県農業協同組合中央会 総合対策部 総合対策課 TEL: 087-825-2503
 香川県農業協同組合 営農部 農産販売課 TEL: 087-818-4109
 香川県農政水産部 農業経営課 TEL: 087-832-3408
 香川県農政水産部 農業生産流通課 TEL: 087-832-3418
 香川県農業再生協議会ホームページ <https://www.saiseikyo-kagawa.jp/>